

屋島の四季

季節ごとに屋島のビューポイントがあります。ほんの一部、ご参考までに。

- 春 獅子の霊巖からの桜と瀬戸の海
- 夏 屋島山上のどこからでも映える瀬戸の海と島々
- 秋 屋島全体が紅葉し、落ち葉に覆われた風情は格別
- 冬 雪化粧の遍路道



※主なビューポイント(おすすめ撮影ポイント)は、このパンフレットの📷です。



周辺の見どころガイド



12 四国村ミュージアム(四国民家博物館)
江戸時代建築の古民家など四国各地から移築された33棟の建造物を巡る野外博物館。屋島山麓の豊かな自然の中で、先人たちの知恵と工夫に満ちた暮らしや民具、アート鑑賞も楽しむことができます。



15 長崎ノ鼻
長崎ノ鼻には、5世紀初頭の前方後円墳があります。また、幕末に黒船が来航して以降、海防の必要性が高まり、高松の港を守るため、砲台を築きました。県道から長崎ノ鼻へ向かう道中は、木立が繁る木のトンネル。景色の素晴らしさと達成感は、ぜひ体感してください。



18 菊王丸の墓
源氏の佐藤継信は、義経の身代わりとして能登守教経の強弓に倒れました。そのとき教経に仕えていた菊王丸は、継信に駆け寄り、その首を切り落とそうとしたが、継信の弟忠信の弓によって倒されました。教経は、その死をあわれみ、この地に葬ったと伝えられています。



13 屋島神社
初代高松藩主松平頼重公が東照大神(徳川家康公)の神廟を建立し、崇敬したことになります。のちに、第8代松平頼儀(よりのり)公が、風光明媚な屋島山麓において新たな御宮の造営に着手し、移転・完成。藩祖松平頼重公も祀られています。初夏の頃、ツツジの花が見事に咲きます。



16 佐藤継信の碑
源平屋島合戦中、平家の能登守教経(のとかみのりつね)の強弓から義経をかばい、身代わりとなった佐藤継信。初代高松藩主松平頼重公は、この継信の忠死を広く世に知らせるため、碑を新しく建立したので、この場所に行宮を建て、陣営をつくりました。



19 赤牛崎(あかばざき)
安徳天皇の内裏に攻め込もうとした源氏は、屋島が島であったことから容易に渡ることができませんでした。しかし、赤牛が渡れるということを聞き、赤牛を放ち浅瀬を知り、源氏が渡ったと伝えられています。夜中、牛の角に松明をつけて渡ったという説もあります。



14 相引川
屋島の南側を東西に流れ、瀬戸内海につながっている「両端に河口を持つ河川」。潮の満ち引きにあわせ、川の水の満ち引きがあることから、相引川と呼ばれるようになったとする説と、源平合戦屋島の戦いの際、源氏・平氏の双方が互いに譲らず引き分けたことを由来とする説があるようです。



17 安徳天皇社
一ノ谷の戦いに大敗し、平宗盛は安徳天皇を奉じて屋島に移動。檀ノ浦の入り江に位置し、後ろに険しい屋島の峰、東に八栗の山をひかえ、地の利を得たところだったので、この場所に行宮を建て、陣営をつくりました。



20 義経鞍掛松
平家追討の命をうけた義経は、源氏の精鋭を率いて阿波の勝浦から大坂峠を越えて高松に入り、屋島を望むこの地で人馬を整え、平家の陣を攻めたと伝えられています。その時、義経がこの松に鞍をかけた休息したといわれています。



瀬戸内海国立公園
史跡天然記念物「屋島」

屋島ウォーカー
屋島を歩こう!
屋島を楽しもう!
かわらけなげ

屋島の魅力を発信!!

屋島 Yashima Walker

絶景

歴史

遊び



屋島の観光情報はこちら



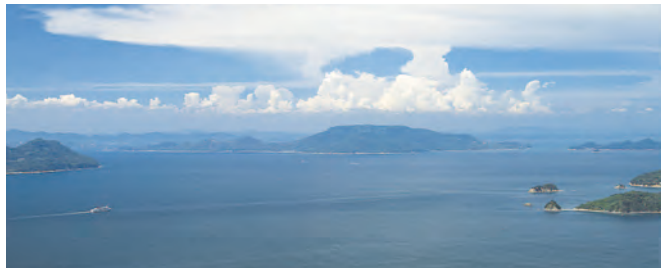
お問い合わせ

高松市観光交流課 TEL087-839-2416(平日8:30~17:00)
(2023.2)



絶景

日本で最初の国立公園「瀬戸内海国立公園」の屋島。半日をかけて山上を一周するだけで、四季を通じて瀬戸内海沿岸随一といわれる絶景をまるごと楽しめます。山歩き・ウォーキングにピッタリな屋島山上エリア。やはり、晴れた日がおすすです。



1 遊鶴亭(ゆうかくてい)

山上で最北端のビューポイント。320度の絶景パノラマを堪能しながら一休み。若き日の昭和天皇の皇后がここでの風景を絶賛し、「遊鶴亭」と命名したといわれて



3 獅子の霊巖(しののれいがん)から見た風景

人気No1のビューポイント。晴れの日は瀬戸大橋が見えるかも! 高松港方面の断崖に突き出た大きな岩が獅子に似ていることが名の由来です。弘法大師が屋島寺を開山する際、この岩の上で祈ると沈みかけた太陽が上昇し、工事が一日で完成したという説も。(屋島寺から約0.4km)



日本夕陽百選・夜景100選・日本百名山



2 冠ヶ嶽(かんむりがたけ)

屋島南嶺の旧屋島ケーブル山上駅から東に歩くと到着。南のふもとから屋島を見上げた時に、大きな岩が飛び出ているように見えるところ。「屋島経塚」という、教典を納めるために作った塚もあります。(屋島寺から約1.2km)



4 談古嶺(だんこれい)

屋島の東側、源平合戦の古戦場「檀ノ浦」の全体を見渡せる最適ポイント。那須与一の扇的、義経の弓流しなどのエピソードに想いをさせてみては? 志度湾から昇る朝日をここから見るができます。(屋島寺から約0.5km)

直島

歴史

史跡天然記念物「屋島」。歴史ロマンに興味をお持ちの方なら、源氏と平家の形勢逆転を決定づけた戦いとそのエピソードを巡るのに十分な見どころがあります。ゆっくりと歩いて楽しめる距離にあります。



5 四国霊場八十八箇所第84番札所 屋島寺(やしまし)

開基は、鑑真和尚とされ、北嶺にあった伽藍をのちに弘法大師が南嶺に移したとされています。屋島寺本堂と御本尊の木造千手観音坐像、梵鐘は国の重要文化財に指定。宝物館(有料)併設。



8 屋嶋城(やしまのき)跡

大和朝廷が唐・新羅の進軍に備え、国防のために九州から都までの間の要衝に山城が築かれたことが「日本書紀」の667年11月の条に記されています。屋嶋城もその一つ。屋島は古代の海上ルートの要所にあたり、山上の急峻な崖を利用して、堅牢な城が築かれました。2022年に城門が確認され、往時の姿を取り戻すべく修復工事が行われました。長い年月を経て蘇った城門や城壁を間近で見学することができ、また上記のアプリをダウンロードすることで、CGで復元された屋嶋城の姿を楽しむこともできます。



6 蓑山大明神(みのやまだいみょうじん)

昔、霧深い屋島で弘法大師が道に迷った時、蓑笠を着た老人(実は化けた屋島太郎狸)に山上まで案内されたそうです。この狸は、多くの善行をつんだため、土地の神・四国狸の総大将として祭られています。日本三名狸の一つ。家庭円満、縁結び、水商売、子宝授けの神。



9 千間堂跡(せんげんどうあと)

平安時代に建立された、屋島寺の前身といわれる寺院があった跡地。鑑真和尚が都へ向かう途中、お堂を建てて普賢菩薩を安置したと伝えられています。仏具である多口瓶(たこうへい)の出土もあり、寺跡であったことが判明しています。



7 血の池(ちのいけ) [瑠璃宝の池]

弘法大師が屋島寺伽藍を南嶺に移す際、お経と宝珠を納め、その周りに池を掘ったのが瑠璃宝(るりほう)の池。源平合戦時、勝利した源氏が血のついた刀を洗い、真っ赤になったとされることから「血の池」とも呼ばれています。



10 新屋島水族館

山の上にある珍しい水族館です。小さな水族館ですが、動物やスタッフの距離が近いアットホームな雰囲気が特徴の水族館です。土日祝は侍が登場する一風変わったイルカライブが大人気です!

北嶺

遊び

史跡天然記念物「屋島」。豊かな自然が残っているからこそ、自然探索を楽しんでいただけるのが屋島山上です。また本格的なショーが観られる水族館や、歴史スポットならではの楽しみも。家族みんなで楽しめます。



11 高松市屋島山上交流拠点施設(愛称:やしまーる)

2022年夏にオープンしたガラス張りの回廊型建物で、時間や季節によって変化するさまざまな屋島を体験することができます。展望スペースからは瀬戸内海や島々、高松市街の絶景が広がります。また施設内にはパノラマアートが展示されており、この作品は縦約5m、横約40mの1枚の絵画とその前面に設置したジオラマによって構成され、平安時代末期の「源平合戦」の「屋島の戦い」から発想を得て、現代にも通じる、人間の戦いと自然の脅威、そして、無常観を表現しています。(やしまーる内・観覧料1,000円、中学生以下無料)。



屋島名物 かわらけ投げ

合戦に勝った源氏軍が陣笠を投げて勝どきをあげた故事にならい、小さな素焼きの土器(かわらけ)を展望台から海に向かって投げて楽しめます。受験の合格祈願にもご利益があるとか。山上のみやげもの店でお買い求めください。(6枚入り、200円)



屋島で観察される鳥とウォーキング

屋島周辺では、ミサゴ・ヒメジロ・ホトギスなど、約130種の野鳥を観ることができます。屋島には、整備された遊歩道、登歩道、登山道、古道など、数種類のルートがあります。所要時間や体力・経験などを考え、最適なコースで楽しんでください。



屋島スカイウェイ

屋島スカイウェイでは、景色を楽しむつつ、車・自転車・徒歩で山上へ向かうことができます。

高松市観光ボランティアガイド

毎週土曜日・日曜日の午前10時から午後3時(冬季・夏季休業もあります)の間に屋島山上で観光ボランティアが待機していますので直接ガイドを依頼してください。【お問い合わせ】高松市観光ボランティアガイド協会事務局(高松市役所観光交流課内) 電話(087) 839-2416

